

# 平成 23 年度おおさかカンヴァス推進事業（案）

## 22年度(フェーズ1)

### 《フリーカンヴァス事業》

応募件数:74 件、採択 11 件

【事例】淀川前夜祭、H.H.H.A.、フラミンゴ畑、どこどこ！巨大紙相撲、b. Friends on the wall、群衆浴場プロジェクト、夢のたね 2010 osaka、川の中から電車の音が聞こえる、signs of memory project 2010 声の道、イッテキマス NIPPON シリーズ “花子”、おおさかDNA

### 《コラボカンヴァス事業》

応募件数：150 件、採択 12 件（6 箇所）

【事例】Stain “Lightfall”、B-PROJECT、ストリッチグ・ソテ、光の雨、パズルプロジェクト、意図的な偶然、ジャンボジェット、「AIR - JACK」、E.T.D. OSAKA、環境感知器「海風彦、陸風彦」、木津川 WP、EV-タクシー

### 《カンヴァス協賛作品》

★ 作品発表の「場所」や「事業」のみ提供し、作品の制作や発表をアーティストの費用負担で行っていただく

【事例】5 件 現代に蘇る智識寺「大仏」、くるくるまわる国境なき立体世界地図、SAKURA 1+1、母と地球と海、古墳と「一人力山」空撮プロジェクト

観覧者数 (H23.3.12~5.15) 約 19 万人

WEB ページビュー (H23.2.1~5.17) 約 12 万件

#### 【関係者の声】

作家の声：  
 ○ 旅費、滞在費、謝礼を支給してほしい  
 ○ 必要な材料や人員について事前にすべて決定し、その後変更が難しい手法は、作品制作上非常な困難を伴う  
 ○ 事業の広報が足りない  
 ○ 自己負担額が大きい

事業者からの課題：  
 ○ 作品制作時期が重なり、人の雇用が困難  
 ○ 事務局機能が存在せず、全体調整や緊急対応を行う人や予算がなかった  
 ○ アーティストの希望や展示場所についての変更等が多く、材料調達等で予算が膨れた

観覧者からの声（アンケート）：  
 ○ 事業を知らず、たまたま通るかかった方が多い  
 ○ 口コミ・友人等の紹介で知った方が多い  
 ○ 観覧者の大半が作品展示に肯定的

23年度(フェーズ2) 22 年度事業の反省や関係者の声を踏まえ、展示方法の工夫やコラボカンヴァス提示課題の深化。

#### ＜主な変更点＞

- 作品発表数の増加（40 件＋協賛作品）
- 観客の視点に立った展示期間や展示方法の設定
- コラボ事業における課題の掘り起こしとアーティストへ提示
- 旅費・滞在費を作品制作費の一部として認める
- 作品制作は作家と個別契約し、支援事業者が執行管理する（制作予算のキャップ制）

〔制作支援〕300 万円を上限に下記の内容を提示

200~300 万円 数点  
 概ね 100 万円 約 20 点  
 概ね 50 万円 約 20 点 総予算 3,200 万円

〔対象分野〕あらゆる分野のアート作品

〔応募対象者〕

アーティスト以外も応募可能であることを明示（地域課題に取り組む団体等との応募を想定）

〔展示・発表期間〕

11 月以降順次展示・発表  
 ワークショップ・イベントは複数回開催可能なもの

〔協賛作品〕

予め、支援予算 0 での展示意向を確認しておく

〔その他事業に関するもの〕

現場説明スタッフやボランティアを配置  
 原則として作品警備は行わない  
 企業協賛の開拓（資材協力、作品協賛、事業スポンサーなど）  
 大阪市や国機関と連携検討（管理施設での展示、広報・事業連携）

#### 23 年度スケジュール

	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
作品募集・選考	20 募集要項確定	6:募集開始	22 締切 月末:一時審査	下:二次審査	上:作品決定	22・23 水都 (エピソード I)	エピソード II 個別作品展示	エピソード III			
イベント・広報等		6:キックオフイベント			上:作品決定	9:御堂筋 kappo 30 大阪マラソン	作品発表				
委託事業		下:政策支援プロジェクト 募集開始		制作支援決定	上:展示支援入札募集開始	上:展示支援決定					
検討委員会	下:委員選定	下:第 1 回 (22 年度総括)	下:第 2 回 (参考事例検討)		中:第 3 回 (24 年度方向性)	上:第 4 回 (取りまとめ)			上:第 5 回 (23 年度総括)		

### 《フリーカンヴァス事業》

アーティストが作品のテーマ、コンセプト、場所等について、自由に提案

### 《コラボカンヴァス事業》

事業や地域コミュニティからのコラボニーズをメニューとして提示し、アーティストに自由に選択してもらう

庁内各課、市町村から約 70 件の提案

- （例）
- ・木津川 WP と木津川遊歩空間整備
  - ・府営公園で伐採樹木の提供や公園ボランティアとの協働
  - ・みどりの風の道形成事業と連携した広域的作品展開
  - ・漁港岸壁でトリックアートを活用した町案内 WP
  - ・公園・道路予定地など数万㎡の広大な未利用地活用
  - ・関西国際空港、通天閣など民間施設
  - ・ビッグバン（来館児童とのワークショップ）、ピースおおさか
  - ・公営福祉バスをラッピングアートにより、利用促進を図る など

### ＜コアエリア＞

★ 予めテーマを設定した展示場所に、10 作品程度を集中的に展示。

- 中之島エリア ～エピソード I～  
 「都会の親水空間の活用とカンヴァス事業の紹介」  
 ◆ 地域資源(水都、都会のイメージ)を活用し、効果的にカンヴァス事業の PR を図る。  
 ◇ 水都のイメージに沿った作品を、都会の真ん中で展開する。
- 服部緑地 ～エピソード II～  
 「都市公園の可能性拡大と地域との連携促進」  
 ◆ 都市公園の使いこなしの可能性を拡大するとともに、地域との連携により利用者が愛着をもてる空間づくりを目指す。  
 ◇ 広大な空間、多様なシーン(森、花、施設など)を活用した作品を発表する。
- 咲洲コスモスクエア地区 ～エピソード III～  
 「アートによる地域魅力の再発見と課題解決の可能性検証」  
 ※アートによる地域活性化  
 ◆ アジアに開かれた交流、交易拠点というポテンシャルの再発見と、咲洲庁舎を中心とした周辺施設との連携による地域活性化の可能性を検証する。  
 ◇ バイエリアというロケーション、巨大な屋内空間を活かした作品を発表する。
- 応募状況により、他エリアで設定の可能性有り

#### ■ おおさかカンヴァス構想検討委員会設置（実施事業の検証）

- カンヴァス事業の現状分析・課題の抽出
- アーティストに対する魅力ある事業の展開方法の検討
- 様々な地域課題の抽出やネットワーク形成方法の検討
- フェーズ 3 に向けた方向性の検討 など

#### ＜検討委員 案＞

アーティスト代表：ヤノベケンジ  
 アートプロデューサー：谷口 純弘、忍那 裕樹  
 にぎわい作り：大阪商工会議所、マスコミ など

24 年度以降(フェーズ 3)

「都市デザインへのクリエイターの参画」  
 「世界中からクリエイターが集まるデザイン都市大阪」